



新春インタビュー

公明党
衆議院議員
太田昭宏 氏

聞く人●長島貴好
本紙社長

長島 昨年は、1年間ありがとうございました。早速ですが、住生活において、家具産業はいまや暮らし産業の領域に入つきました。我々の産業分野の課題として、この新年は国民生活の住生活、特に家庭内の暮らし方構成、高齢化社会における高齢者住宅などの課題です。まずはどのような考え方でいらっしゃるか。

太田 今一番の問題として政治が取り組まなければならぬのは、時間軸を持つた政治が続いてきました。しかも、目の前の対応や政局に追われているという政治が続いています。どうして

太田 それは、高齢化社会は医・職・住の時代

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

かし、安倍政権はまれに見る安定政権です。おかげで選挙も勝たせていただきました。国政選挙において、5回連続で

おいて、家具産業はいまや暮らし産業の領域に入つきました。我々の産業分野の課題として、この新年は国民生活の住生活、特に家庭内の暮らし方構成、高齢化社会における高齢者住宅などの課題です。まずはどのような考え方でいらっしゃるか。

長島 そこは、しっかりと対応して日本の未来を考える必要があると思っています。オリンピック・パラリンピックの2020年を焦点にほせ、そこを超えた10年、20年後のこととして政治が取り組まなければならぬのは、時間が経つた政治だと言つています。どうして

太田 それは、少子高齢化で、今後は寿命百年時代を迎える。こうしたことに対しても問題があります。しかし、それらのことを

長島 まず何を優先課題とされますか。太田 そのなかで街づくりについては、2014年7月1日に国土交通省「国土のグランドデザイン2050」を発表しました。私が国交大臣の時です。これから高齢化社会では、車社会で広がった街をコンパクトシティにしていかなければなりません。昔は、地方創生

とされています。そこで、高齢化社会は医・職・住の時代

コンパクトシティ・スマートシティへ

とすれば、ソファも沈み込みすぎるものだと腰に悪いですね。これから迎える高齢化時代に対応した、住宅政策および中身

としての家具も作っています。高齢者用、人と人との

トウェルネスシティにも

つてきます。こうして暮らせる街を考えて暮らせる街を作ります。そのうえで、街づくりを進めてい

かなければならぬこと考

えていました。そのうえで、街づくりにおいて大切に

木は非常に大切な役割を果たしています。昨年6月、東京の足立区で木造5階建ての老人ホームが出来ました。また、私の

外交大臣時代の最後には、3階建ての学校の木造校舎が建てられるようになります。2033年には、3軒に1軒は空き家になる

玉県の鳩山ニュータウンの話しが出てきて、高齢化が進み町が溶けていく

ところです。このタウンは日本住宅パネル協同組合が開発したんですね。これは私

トウェルネスシティにも

つてきます。私は長屋は、ある意味では暮らせる街を作ります。そのうえで、街づくりにおいて大切に

木造5階建ての老人ホームが出来ました。それは非常に貴重だったなと思います。

そのうつた環境に育ちます。今は住宅自体の問題だけではなく、街全体の問題があると思います。

高齢者用、人と人との

トウェルネスシティにも

つてきます。そのうえで、街づくりにおいて大切に

木造5階建ての老人ホームが出来ました。それは非常に貴重だったなと思います。

木造5階建ての老人ホームが出来ました。それは非常に貴重だったなと思います。

そのうつた環境に育ちます。今は住宅自体の問題だけではなく、街全体の問題があると思います。

木造5階建ての老人ホームが出来ました。それは非常に貴重だったなと思います。

けは同じです。この新しい医・職・住が揃った街に、豊四季台団地などはなっています。

長島 昔すと、日立や豊田の城下町がありました。今は城下町ではなくて、たとえば越谷のボラスがそうしたことを手掛けています。阿波踊りを何十年とやってきて、今は何十万人が集まります。草加の煎餅がダメになつた今も、ボラスのおかげで結構にぎわっていますね。

太田 行政全体として、そういう工夫をしているところを本当に応援すべきだと思います。国も、そういう新たな時代の住宅政策といふのを打ち始めています。私の中には待ったなしという感じがすごくあります。東京都でも、狭い土地が空いたらすぐに安くて作ってします。本当に「重層長屋」のような密集市街地を再び作ってしまうことがあります。急がないとダメで、昔は、若い人たちが30歳代で住宅の一次取得をしていました。住宅すこくというものもあり

ました。しかし、今はフレで給料が安く家が買えません。今はマイナス面ばかり言いましたが、ここで本当に新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 昨年、斎藤鉄夫衆議院議員のパーティがありました。斎藤さんに挨拶して井上幹事長とお話をしたのは、専門新聞協会の立場ですが、もともと公明党はヒューマニズムと弱者の味方、庶民政党だということです。それから、先ほどの医・職・住というお話ですが、私は業界でも使いたいと思いました。我々

いう意味でいくと、教育を受ける期間、65歳までの働く期間、老後の期間には分かれていますね。70歳代や80歳代まで働くということになると、一つの仕事だけではなくて、三つくらい仕事をしなければならないかもしれません。

また、コンピューターを使って副業をするといつても、手前味噌で言つたりもしています。

太田 それから人生100年時代とも言つていいのに、「重層長屋」が一方ではあります。いろいろな仕組みを作つていかなければならぬといふ課題もあります。急がないとダメで、昔は、若い人たちが30歳代で住宅の一次取得をしていました。住宅すこくというものもあり

ました。しかし、今はフレで給料が安く家が買えません。今はマイナス面ばかり言いましたが、ここで本当に新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 今年、斎藤鉄夫衆議院議員のパーティがありました。斎藤さんに挨拶して井上幹事長とお話をしたのは、専門新聞協会の立場ですが、もともと公明党はヒューマニズムと弱者の味方、庶民政党だということです。それから、先ほどの医・職・住というお話ですが、私は業界でも使いたいと思いました。我々

いう意味でいくと、教育を受ける期間、65歳までの働く期間、老後の期間には分かれていますね。70歳代や80歳代まで働くということになると、一つの仕事だけではなくて、三つくらい仕事をしなければならないかもしれません。

また、コンピューターを使って副業をするといつても、手前味噌で言つたりもしています。

太田 それから人生100年時代とも言つていいのに、「重層長屋」が一方ではあります。いろいろな仕組みを作つていかなければならぬといふ課題もあります。急がないとダメで、昔は、若い人たちが30歳代で住宅の一次取得をしていました。住宅すこくというものもあり

ました。しかし、今はフレで給料が安く家が買えません。今はマイナス面ばかり言いましたが、ここで本当に新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 その人間への政治といふことで思い出しました。いま観光増税やたばこ増税などが新聞を読みながらしていません。個人消費、可処分所得が落ち込む中で、皆気が滅入ってしまう話です。そのあたりは公明党としてはいかがでしょうか。

太田 私は「公明党は、福祉の公明党、平和の公明党」ということを掲げきました。平和や政局、安全保障といったことは大事ですが、実は公明党の本流は福祉です。昭和30年代に教科書の無償配布をしたり、40年代には児童手当を実現しました。そういうことで今日まできた政党です。

ここで、一気に国会で論議されているのが、子税として出戻税を負担し

ました。しかしながら、今はフレで給料が安く家が買えません。今はマイナス面ばかり言いましたが、ここで本当に新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 今年、斎藤鉄夫衆議院議員のパーティがありました。斎藤さんに挨拶して井上幹事長とお話をしたのは、専門新聞協会の立場ですが、もともと公明党はヒューマニズムと弱者の味方、庶民政党だということです。それから、先ほどの医・職・住というお話ですが、私は業界でも使いたいと思いました。我々

いう意味でいくと、教育を受ける期間、65歳までの働く期間、老後の期間には分かれていますね。70歳代や80歳代まで働くということになると、一つの仕事だけではなくて、三つくらい仕事をしなければならないかもしれません。

また、コンピューターを使って副業をするといつても、手前味噌で言つたりもしています。

太田 いま日本は自動車、化学、観光の順で経済の主要な部分を占めています。観光客は総動と住まいの問題は、また衣・食・住から医・職・住に変わります。これからいく戦略を立てるか、職業はどうするのか、家はどう持つのか、どこで何で生きます。これは、良いこともあります。今生まれている私たちの孫は、100歳まで生きます。これは、良いことかもしれないけれど、大変かもしれない。

人々は、人生100年時代へ戦略をどう立てるかということが非常に大切になります。企業も戦略を立てます。企業もある意味では戦略を立

みました。しかしながら、今はフレで給料が安く家が買えません。今はマイナス面ばかり言いましたが、ここで本当に新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 昔すと、日立や豊田の城下町がありました。今は城下町ではなくて、たとえば越谷のボラスがそうしたことを手掛けています。阿波踊りを何十年とやってきて、今は何十万人が集まります。草加の煎餅がダメになつた今も、ボラスのおかげで結構にぎわっていますね。

太田 行政全体として、そういう工夫をしているところを本当に応援すべきだと思います。国も、そういう新しい住宅政策をもっていかないといけないと、今の国交省住宅局長をはじめとして真剣に取り組んでいます。

長島 今年、斎藤鉄夫衆議院議員のパーティがありました。斎藤さんに挨拶して井上幹事長とお話をしたのは、専門新聞協会の立場ですが、もともと公明党はヒューマニズムと弱者の味方、庶民政党だということです。それから、先ほどの医・職・住というお話ですが、私は業界でも使いたいと思いました。我々

いう意味でいくと、教育を受ける期間、65歳までの働く期間、老後の期間には分かれていますね。70歳代や80歳代まで働くということになると、一つの仕事だけではなくて、三つくらい仕事をしなければならないかもしれません。

また、コンピューターを使って副業をするといつても、手前味噌で言つたりもしています。

太田 いま日本は自動車、化学、観光の順で経済の主要な部分を占めています。観光客は総動と住まいの問題は、また衣・食・住から医・職・住に変わります。これからいく戦略を立てるか、職業はどうするのか、家はどう持つのか、どこで何で生きます。これは、良いことがあります。今生まれている私たちの孫は、100歳まで生きます。これは、良いことかもしれないけれど、大変かもしれない。

人々は、人生100年時代へ戦略をどう立てるかということが非常に大切になります。企業も戦略を立てます。企業もある意味では戦略を立

木材は生き続け木造住宅に人が生きてる



人生100年時代の社会と暮らしに

The HOME LIVING